

今年の秋サケ来遊見通しについて

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

昨年（平成30年）の来遊状況

平成30年（2018年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は2,317万尾と、平成以降では、最も少なかった平成29年（1,737万尾）に次いで2番目に少ない来遊数となりました（図1）。

年齢別にみると、4年魚（平成26年生）は1,835万尾（前年比79%）と平成以降での平均の8割程度、5年魚（平成25年生）は283万尾（前年比12%）と平成以降では最も少ない来遊数に留まりました。また、3年魚（平成27年生）は166万尾と平成以降での平均の7割程度の来遊数となりました。

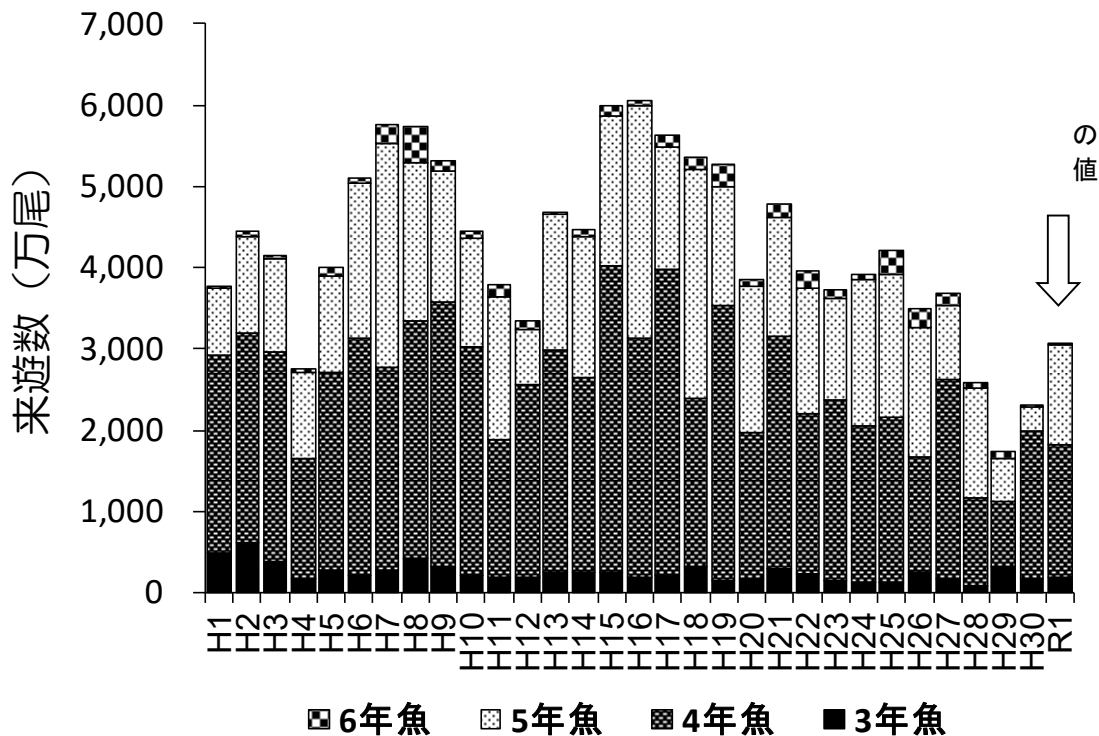


図1 最近の北海道へのサケの（年齢別）来遊数の推移

今年（令和元年）の来遊の見通し

令和元年（2019年）の全道への秋サケ来遊数は3,070万4千尾と予測され、3,000万尾を若干上回る予測となっています（図1）。年齢別には4年魚が1,638万尾と平成以降の平均の7割程度、5年魚は1,228万尾と平成以降の平均の8割程度の予測となっており、全体的には前年に引き続きやや増加傾向となっています。

地区別の来遊予測値については、北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場のホームページをご覧ください（<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hatch/index.html>）。